

とうぬさま  
殿様節  
(本調子)

うきゆ なとう くい うじがみ  
1. 浮世に名取たる恋ぬ氏神

すない とうぬさまばん  
祖納ぬ殿様我どうやゆる

くとううむ ふなうき い  
かまどまぬ事思いどう船浮に行くよば

うむ とうぬさまだ ぶ  
2. かまどま思いぬ殿様抱ぎ欲しゃぬ

た  
立ちんびちんぶらるぬよ

た  
いらよまーぬよ立ちんびちんぶらるぬよ

まいさきさち とうぬさま ふに い  
3. 前崎先から殿様 船ぬとぅん出だら

ふなうき しょうちゅうぬ しちゃ  
船浮かまどま焼酎呑まんでい舌うっしゃらよ

世間で言われている恋の氏神とは西表祖納の殿様と呼ばれている私のこと。船浮村のカマドマに恋をしてこれから船浮に行きます。

カマドマは殿様を抱きたくていても立ってもいられない。

前崎先から殿様の船が見えたのでカマドマは焼酎が呑めると舌つみをうっている。

< 解説 >

祖納村の役人と船浮村の娘の恋歌。

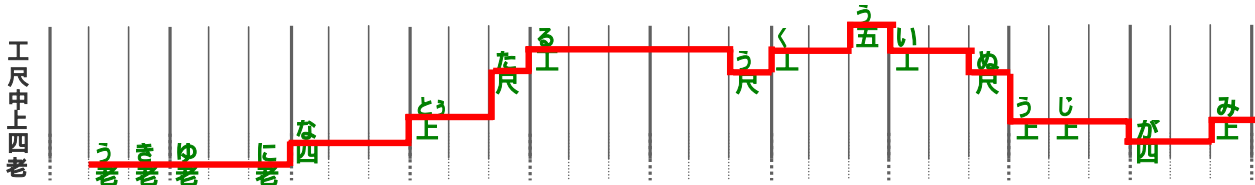
「殿様」は髪型が大和の殿様のようにだったことから呼ばれたあだ名。

この後は、殿様が来るまでクファディサの木に抱きついて待ち焦がれたと続く。

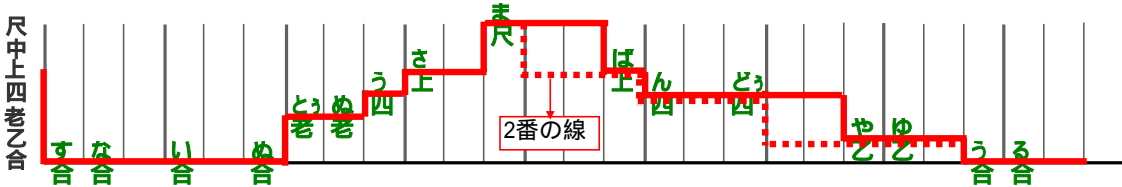
< 八重山 >

工 尺合 尺上 老四 五工 尺合 尺上 老

四 工合 老四 老上 尺工 老工 老五 老工 老上 老四 上  
 うきゆ にな とぅ たる うく うい めうじ が み  
 かまど まう む いぬ うとぅ うぬ うさ まあ  
 まいさ きさ ち から あとぅ うぬ うさ まあ

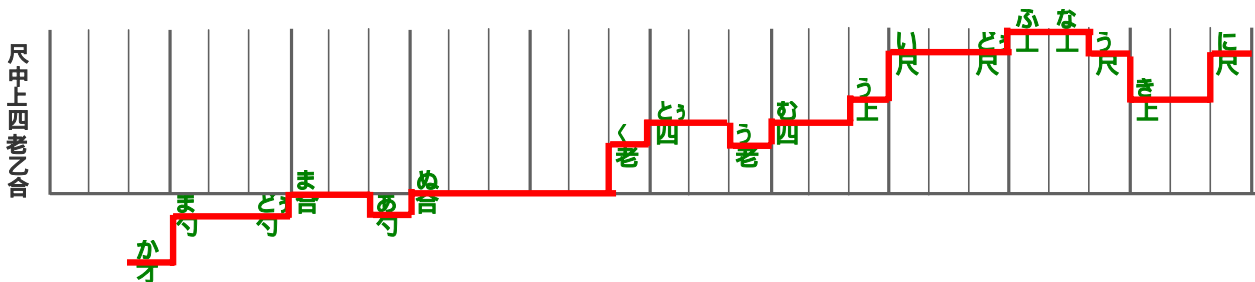


合 尺合 上老 四上 尺上 老四 尺乙 尺乙 尺合 上  
 すな い めとぅぬうさ また ばん どぅ やゆ うる  
 だぎ ぶ しゃあぬ うた ちんび ちんぶ らるぬよ  
 ぶ に いぬ う とぅん いだ あら



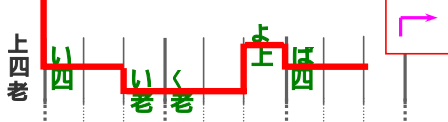
工 尺合 五工 尺

合 上合 尺合 上合 尺合 老四 老上 老尺 老工 老上 尺  
 かま どま あぬ くとぅ うむ うい どぅふなうき に  
 いら ああよ まあ あぬ うよ た ちんび ちん  
 ぶなう きか まどま しょうちゅうぬ まん でいし ちゃう うっ



四 工老 上四 老

い いく よば  
 ぶ らるぬよ  
 しゃ あら あよ



1. 浮世に名取たる恋ぬ氏神祖納め殿様我どやゆる  
かまどまぬ事思いどや船浮きに行くよば
2. かまどま思いぬ殿様抱ぎ欲しゃぬ立ちんびちんぶらるぬよ  
いらよまーぬよ立ちんびちんぶらるぬよ
3. 前崎先から殿様船ぬとぅん出たら  
船浮かまどま焼耐呑まんてい舌うっしゃらよ